

1) システムの名称:

SYNAPSE <FUJIFILM 医用画像情報システム>

2) 対象業務、電子カルテシステム内での位置付け :

5. 画像検査系（部門情報システム、PACS、レポート系、モダリティ他）

3) 特色:

SYNAPSE は国内 1,100 サイト以上、世界で 2,300 サイト以上の導入実績を持ち、フィルムレス PACS として最先端の技術を最も使いやすい形でご提供する実用性は多くの医療施設で認められ、病院全体で活用できる医用画像ネットワークソリューションとして、北米、欧州、日本で急速な拡がりを見せてています。

SYNAPSE は日々蓄積される膨大な画像情報の中から、必要な情報を効率よく提供するため、ネットワーク技術と高速画像処理表示技術を組み合わせたオンデマンド画像表示メカニズムにより、いつでも、どこでも必要な情報を医師が入手できます。また、検査のオートフィルタリングなどにより、各種モダリティ画像や過去の撮影データとの比較検討なども容易に行える環境をご提供します。

SYNAPSE はオープンアーキテクチャを採用しており、長期にわたる画像運用を実現し、過去画像に対する軽快なレスポンスを実現しています。さらに医師の自宅や病院間のリモート運用など様々な新機能も搭載、様々な医用情報システムとの連携や、SYNAPSE に検診読影・所見入力システムを統合することにより、検診業務の読影ワークフローを大幅に効率化することもできます。施設の規模に応じたラインナップから最適なシステムの導入、施設の発展に合わせた柔軟なシステム拡張が可能です。

■ ラインナップ

SYNAPSE (Enterprise-PACS)

フラグシップ PACS として柔軟性と高信頼性を両立するエンタープライズ PACS

SYNAPSE EX (パッケージシステム)

中規格運用実施設向けシステムとして、レポートや患者属性オンライン機能、検診システムなどのバリエーション

半焼却運用施設向けシステムとして、
SYNAPSE Lite（パッケージ版）を

SYNAPSE Lite（ハイエンドシステム）
中、小規模運用施設向けシステムとして、導入しやすく、フラグシップ PACS としての SYNAPSE のアーキテクチャを継承
SYNAPSE Mini-X（ミッドレンジシステム）

SYNAPSE MINI-X（ハイブリッドシステム）
小規模運用施設向けシステムとして、コンパクトで、フラグシップ PACS としての SYNAPSE のアーキテクチャを継承
する SYNAPSE ファミリーにて、想定・運用の異なるお客様のご要望にお応えいたします。

■ 基本コンセプト

① オープンなシステム環境

SYNAPSEはインターネット技術を採用し、そのままインターネットやネットワークインフラを利用した地域医療連携が可能となります。

効率的なデータ運用を実現するグループ病院などでは、画像データの一元管理を可能とします。

では、画像データの一元管理が可能になります。
また、分院においては利用頻度が高い近々の画像を、
一定期間持つキャッシュサーバーで、アクティブな運
用が可能となります。

また、院内のモダリティとシステムをよりオープンに連携し、更に効果的な診療のためにシンプルに統合していきます。

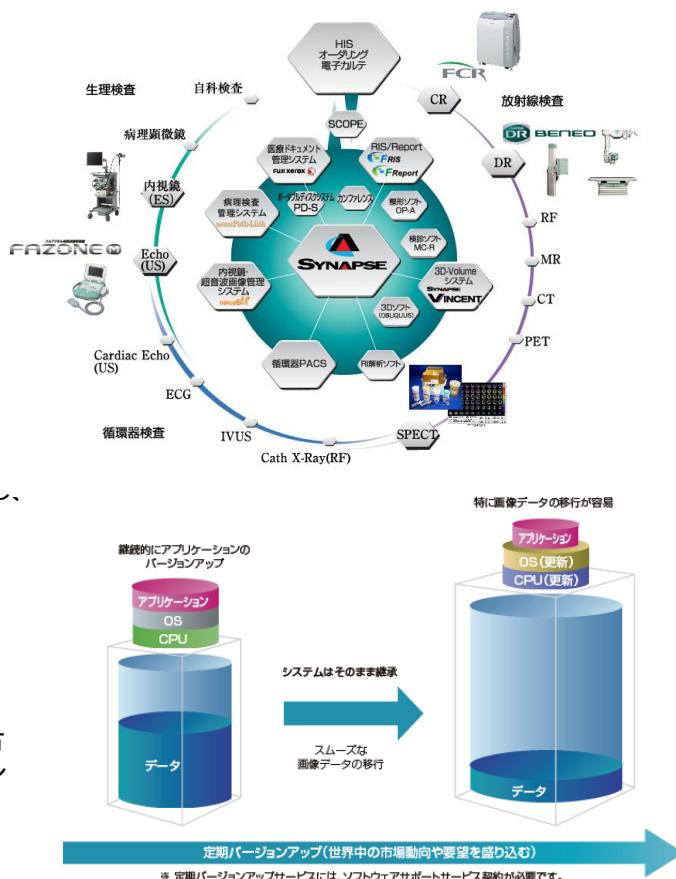
② だれにでも使える操作性 -直感的に操作性-

Windows オペレーションそのものでの操作を可能とし、だれにでも使える操作環境を提供します。

読影及び診療上必要な情報を、フィルムジャケットから情報を取り出す感覚で、電子運用が可能となるパワージャケットを搭載しています。

③ 最新のアーキテクチャ -古くならないシステム-

最新の Web 技術を採用し続けるアーキテクチャで「古くならないシステム」とした開発コンセプト。アプリケーションソフトを継続的にバージョンアップ、ハードウェア更新時には最新のハードウェアにアプリケーションと共に過去のデータを継続的に運用ができます。



■SYNAPSE と親和性の高いレポート作成システム/健診読影所見入力システム

① レポート作成システム SYNAPSE Result Manager

SYNAPSE との連携を強化し、レポートシステムとしての基本機能は勿論のこと、放射線レポートに加え、病院内全体（全診療科）で使用できる診断ツールとして開発したシステムである。また、データの利活用として症例データベース機能等のオプションを有し、検査情報統合システムというコンセプトを基、小規模施設から大規模施設まで対応可能なラインアップを持つ。Web ベースアプリケーションの特徴を活かし、各診療部門システム特有の I/F に対応し病院全体のレポートプラットフォームとして機能し、単なるレポートではなく院内全体で使用する次世代型診断結果マネージメントシステム（Result Management System）に発展していく予定。

② 検診読影所見入力システム MC-R

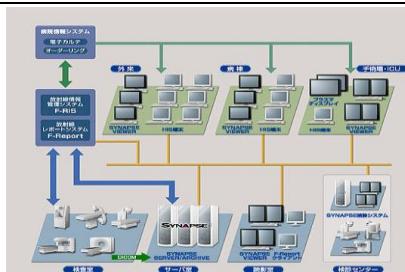
MC-R は検診読影ワークフローに対応したレポートシステムです。胸部、胃部、肺がん、乳がん等の検査業務に伴う一連の読影ワークフローを電子化。企業検診、人間ドックなど日々大量の検査業務を実施する施設で大きな威力を発揮します。大幅な業務の効率化、省力化を実現します。



4) 画面／構成図を含めた分かりやすい説明 :

■SYNAPSE システム概要図

- ① HIS(電子カルテ・オーダリングシステム)とリンクし、データの共有化と高速展開により、院内全体での画像運用を提供。
- ② RIS 及びレポートシステムとリンクし、モダリティデータを確実に管理し、データベース化によって効率的なワークフローを提供。
- ③ 院内全ての配信端末に配信される画像はオリジナル画像です。
(モニタ診断でも高品質画像が可能です)



5) 標準化への対応状況、未達成の場合対応予定および対応のための追加費用の有無 :

<DICOM ver3.0> Storage SCP、QR SCP/SCU、MWM SCP、Print SCU

<HL7 ver2.5> 患者情報 (ADT)、検査情報 (ORM)

<IHE-J 準拠> Actor : Image Manager/Image Archive、Integration Profile : SWF、PIR、ARI、CPI、KIN、MAMMO

Actor : PPS Manager、Integration Profile : SWF

Actor : ImageDisplay、Integration Profile : SWF

クライアントへの配信は HTTP プロトコル対応、画像圧縮は JPEG/Wavelet 圧縮対応。各種標準化へ対応。

6) 動作環境（ソフトの場合）、ハードスペック（ハードの場合）:

①サーバスペック

OS : Microsoft Windows Server2003 StandardEdition 日本語版 / CPU : デュアルコア Intel プロセッサー-5160 3.0GHz
2CPU 相当以上推奨
NIC・電源 : リダンダント推奨

②クライアントスペック

OS : Microsoft Windows XP Professional SP2 日本語版推奨 / Web ブラウザ : Internet Explorer 6.0SP1 以上
CPU : Intel Pentium4 3.2GHz 以上推奨 / メモリー : 1GB 以上推奨

7) 稼動までに必要な作業・期間 :

2~6 ヶ月（システム規模や施設状況による）

8) 価格（桁数（日本円における桁数）、「ご相談」は不可、桁数帯・金額・金額帯を入れても良い）:

7~10 桁（システム規模により算出）

9) 保守の内容と費用 :

スペシャリストによる保守＆サポートが、古くならないシステムと長期運用、止まらないシステムを支えます。さらにまた、画像の見読性を確保するため、画像を表示するモニタの品質管理などファイルムで培ったノウハウを活かしたイメージソリューションサービスもご提供しています。導入初年度は無償、次年度以降は有償保守契約にて対応しています。
費用 : 6~8 桁（システム規模とご要望内容により算出）

10) 問い合わせ先（販売会社 担当者、URL、e-mail 等）および開発元（もし別途あれば）:

富士フィルムメディカル株式会社 <http://fms.fujifilm.co.jp/>

ITソリューション事業本部 事業推進部

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フィルム西麻布ビル

TEL. 03-6419-8040 FAX. 03-5469-3468